

植物多様性センターの「手ごわいコゴメウツギ」

コゴメウツギは、丘陵地や山地にごく普通に生えるバラ科の落葉低木です。小さな木なので、一見弱々しく見えますが、どうしてどうして、その旺盛な繁殖力には驚かされます。まず、実生がたくさん生えます。枝は地面についたところから直接発根し、枝の途中からも上向きの強い枝を発生させます。地際から切っても、すぐに萌芽し再生します。放っておくと容易に立ち入ることのできない深い藪となり、管理者泣かせとなる植物です。



開花：直径5mm程の小さな花。つぼみは名前の通り米粒のよう



実生：種子はよく発芽し、成長が早くすぐに大きくなる



発根：地面についた枝は、先端の節から容易に発根する



萌芽：葉腋の下から萌芽することで噴水型の樹形となる